

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-88	高等学校	地理歴史	地理総合	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
130二宮	地総704	地理総合 世界に学び地域へつなぐ		

## ① 編修の趣旨及び留意点

教育基本法の第1条には、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とあります。本教科書は、教育基本法および学校教育法の趣旨を踏まえ、高等学校学習指導要領「地理総合」に示された目標・内容・内容の取り扱いに則り、以下の趣旨に基づいて編修しました。

### ○ 地球規模でとらえ、考える～ Think Globally

第1章「地図とGISの活用」では、地理学習の端緒となる地図やGIS（地理情報システム）の活用の仕方について、世界規模の人・物・情報のつながりに着目しながら学習します。これをもとに、第2章「地理的環境の特色」および第3章「世界各地の生活文化」では、生活文化の多様性や、生活文化に影響を与える地理的環境についてさまざまな側面から学習し、第4章「地球的課題と国際協力」では、さまざまな地球的課題について、SDGsの観点のもとに学習します。これらの学習を通して、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質といえる、地理的な知識や技能を身につけることができます。

### ○ 地域の課題を理解し、行動する～ Act Locally

第5章「生活圏の諸課題」では、第4章までの学習で身につけた知識・技能を活用して、生活圏の諸課題について学習します。地図・GISの技能を活用し、防災学習や地域調査を通して、課題を発見し、調査し、解決に向けた方向性を見いだす力を養います。その際は、生徒自らの主体的な行動が促され、心身ともに健康な国民の育成に寄与します。



◀口絵・世界の友達から「こんにちは」  
口絵ページには、各国の生活・文化、人々の様子が読み取れる写真を、あいさつの言葉とともに掲載しました。

## ② 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標、学習指導要領に示された教科「地理歴史」ならびに種目「地理総合」の目標を達成するために、以下の方針により編修しました。

**【第1号】幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。**

地理総合は、高等学校地理歴史科の基礎となる必修科目であり、地理で身に付ける知識と教養は、社会科学習の基盤となるだけでなく、国際社会・地域社会で活躍するすべての人々が身に付けるべきものであると考えます。本教科書では、幅広い分野・地域の事例を取り扱うとともに、現代社会の生活文化や課題について、多様な視点から探究できるよう、トピックを豊富に取り入れました。また、身近な課題について、地図学習や地域調査を主体的に行うことを促しており、豊かな情操と道徳心、健やかな身体を養えるように配慮しました。

**【第2号】個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。**

多様性のある世界の生活文化を学習するにあたって、グローバルな広がりを持つものだけでなく、少数民族や地域特有の生活文化を多く紹介し、その価値を尊重しています。また、「Think globally, Act locally」の精神のもと、地球的課題を自分のものとして意識した上で、地域の課題を発見し、解決に取り組むよう、学習段階に応じた探究学習を取り入れました。

**【第3号】正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。**

私たちの生活文化は、自然・文化・経済という3つの側面との相互作用で形づくられています。しかし、自然重視の立場と、経済重視の立場など、意見が対立することがあります。本教科書では、こうした課題解決のためにSDGs（持続可能な開発目標）を重要視しています。また、自然災害に備えるにあたって、自助・共助・公助の精神を説いています。こうした学習を通して、主体的に社会形成に参画する精神が養われるようにしました。

**【第4号】生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。**

本教科書には豊富に写真を掲載しています。写真には撮影年月を明記し、その地域のありのままの姿を正しく伝えるものを選んでいきます。また、人口・食料問題や気候変動など、危機的な状況がみられる事象については、世界で活躍する写真家・ジャーナリストによるメッセージ性のある写真を取り上げました。また、環境問題の要因やしぐみについて詳しく記述しており、自然環境を保全することの大切さを理解できるようにしました。

**【第5号】伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。**

第1章②「世界からみた日本の位置と領域」では、地理院地図や海図など多様な地図を活用し、海洋にも大きく着目しながら国家の領域について学習します。第3章「世界各地の生活文化」では、世界の諸地域と日本との関係についてコラムで取り上げ、地域調査では、地域資源を活かした活性化の事例を取り上げています。これらにより、自国を愛し、他国を尊重する精神を身に付けられるようにしました。

### ③ 対照表

第1章 地図とGISの活用		
導入・地理の扉 ～現代の世界地図が生まれるまで ① 球面上の世界 1. 位置の基準～地球上の緯度・経度 2. 時間の基準～時差と標準時	地理空間情報の基盤となっている位置と時間について、なぜ科学的に正確に測る必要があるのか、歴史的経緯を踏まえて、その仕組みを正しく理解できるよう工夫しました。導入では文学作品を取り上げるなど、豊かな情操を育む配慮をしています。(第1号・第5号)	p.12 ～17
② 世界からみた日本の位置と領域 1. 視点を変えてみた日本の位置 2. 国家とその領域 3. 海に広がる日本の領域 4. 日本の領域に関する問題	国家とその領域についての基礎知識を身につけた上で、日本の領域と、北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる現状について、地理的・歴史的側面の双方から学習を深められるように配慮しました。海図などを活用するとともに、海洋に大きく広がる日本の排他的経済水域と海洋資源についての記述を充実させました。(第1号・第5号)	p.18 ～25
③ 国内や国家間の結びつき 1. 国家間の結びつき 2. 交通・通信による結びつき 3. 貿易・物流による結びつき 4. 観光による結びつき	人・物・情報を通して世界がどのようにつながっているかを、多様な図法の地図を通して大観させることにより、主題図を正確に読み取るリテラシーを育みます。貿易と国内の物流を組み合わせて紹介するなど、日本に暮らす人々の生活との関連性も重視しています。(第2号)	p.26 ～35
④ 暮らしのなかの地図とGIS 1. 身の回りの地図を集める 2. 地理院地図の活用 3. 地図・GISのしくみと役割 ステップアップ① ぶらり散歩地図をつくろう。	地理学習のために必要な、地図に関する基礎知識、コンピュータでGISを扱う基礎的な技能を学習します。ステップアップでは、アニメ聖地地図を題材とし、自ら情報を収集し、情報を選択・処理する技能を楽しく身につけられるよう配慮しました(第1号・第2号)	p.36 ～47
第2章 地理的環境の特色		
導入 写真から読み解く地理的環境の特色	章の導入として、写真から生活文化の特徴を読み取り、その背景を見いだす方法を紹介しています。特に、生活文化と自然環境の関わりがみられる写真を掲載しています。(第2号・第4号)	p.48 ～49
① 地形と生活文化 1. 変動帯とプレート 2. 河川がつくる地形と生活 3. 海岸の地形と生活	私たちが生活する地形の成り立ちについて学習し、長い年月をかけて形成された地形と、生活との関わりを考えます。模式図とともに写真を豊富に掲載しており、自然に対する関心を高めます。節末では自然地形に関連した地形図の読図コラムを設け、QRコードにより地理院地図をデジタル環境で活用できる配慮がなされています。(第1号・第4号)	p.50 ～59
② 気候と生活文化 1. 大気循環 2. 気候の地域性 3. ケッペンの気候区分 4. 熱帯の自然環境と生活 5. 乾燥帯の自然環境と生活 6. 温帯の自然環境と生活 7. 亜寒帯・寒帯の自然環境と生活	世界の気候を区分してとらえ、それぞれの気候帯の特徴と、生活文化との関わりについて学習します。最新のメッシュ気候値を用いた気候区分図や、それぞれの気候帯の分布図・代表的な地点の雨温図とともに、特徴的な気候景観の写真を豊富に掲載しており、前節で学習した地形とともに、自然に対する関心を高めます。(第4号)	p.60 ～73
③ 産業と生活文化 1. 農業の発展と生活文化 2. 工業の発展と生活文化 3. 商業・サービス業の発展と生活文化	生活文化に影響を与える世界の農業、工業、商業・サービス業の発達について、地図や写真をもとに大観します。ICTなどの発達による新しい時代の動向を重視するとともに、ヒット商品の変化に関するコラムにより、日常生活の変化とも関連づけています。(第1号・第2号)	p.74 ～79
④ 宗教・言語と生活文化 1. 宗教の分布と生活文化 2. 言語の分布と生活文化 3. 移民と難民 4. 生活文化の多様性	生活文化の基盤となっている宗教・言語について、主題図や写真を通して、その多様性を理解させます。また、伝統文化とともに、移民の増加、観光客の増加など国際化・グローバル化の流れのもとでの画一化や多様化について考えさせ、マイノリティの重視など多文化共生社会の重要性を説いています。(第1号・第5号)	p.80 ～87

第3章 世界各地の生活文化		
導入 各地域の生活文化と地理的環境のかかわり	導入として、生活文化と相互に影響し合う自然、社会、経済といった地理的環境について、写真とともに取り上げています。また、開発により変化する生活文化と自然、社会、経済との関連を模式図で説明しており、幅広い知識と教養から真理を求める手助けになります。(第2号・第5号)	p.88 ～ 89
① 経済発展と生活文化の変化～東アジア ② 宗教の多様性と生活文化～ASEAN 諸国 ③ 水の恵みと生活文化～南アジア ④ イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏 ⑤ 多様な気候と生活文化～アフリカ ⑥ 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国 ⑦ 寒冷な気候と生活文化～ロシア ⑧ グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ ⑨ 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ ⑩ 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア	世界各地の生活文化について、自然、社会、経済、開発の観点からそれぞれ1事例を選び、地理的環境との相互影響を踏まえて学習します。各節の導入では、左ページに着目する地理的環境に即した景観写真を大きく掲載し、右ページに多様な生活文化がみられる多くの写真を掲載しました。これにより、生活文化の各事例を学ぶにあたり、その特徴を概観できるようになっています。(第2号・第4号)。 節末には、日本との結びつきについてコラムで掲載しました。これにより、他国を尊重する態度を養うことに寄与します(第5号)。	p.90 ～ 163
ステップアップ② 各地域の生活文化を比較してみよう。	各節で学習してきたことをふまえて、各地の生活文化を比較し、生活文化にみられる自然、社会、経済の影響を具体的に考えさせるページです。一人一人が異なる国について自主的に学習することをうながしており、創造性を培い、自主自律の精神を養うことができます(第2号・第5号)。	p.164 ～ 165
第4章 地球的課題と国際協力		
導入 相互に関連する地球的課題～SDGs	導入として、SDGs(持続可能な開発目標)で掲げられている17の目標を写真とともに示すとともに、SDGsと自然、社会、経済といった地理的環境との関係、地球的課題との対応を明示しています。写真は、人物に焦点を当てたものを多く掲載しており、個人の価値や男女の平等についても考えるきっかけになります。(第2号・第3号)	p.166 ～ 167
① 地球環境問題 1. 環境問題と持続可能な社会 2. 国境を越える汚染 2. 森林減少・砂漠化とその対策 3. 気候変動とその対策	海洋汚染や大気汚染、熱帯林の減少・砂漠化、地球温暖化について、写真・地図・模式図により、緊急な対策が必要なものとしてとらえさせています。SDGsの「誰一人取り残さない」という意思を明示し、持続可能な社会とはなにかを主体的に生徒が理解できるよう、本文の記述にも配慮しています。(第2号・第4号)。	p.168 ～ 175
② 資源・エネルギー問題 1. 鉱物資源・エネルギー資源とその課題 2. 資源のリサイクル・再生可能エネルギー	鉱物・エネルギー資源の特徴や偏在性について地理的に考察する一方、資源のリサイクルや、再生可能エネルギーの活用により環境への負荷を減らす可能性を幅広く紹介し、具体的な課題解決の方向性を考えさせます。(第1号・第4号)	p.176 ～ 181
③ 人口・食料問題 1. 人口と人口問題 2. 世界各地の人口問題 3. 二つの食料問題 4. 食料問題の背景と解決策～サブサハラ	経済発展の段階により現れ方が異なる人口問題について、インドとフランスを事例に、解決に向けた方向性を示しています。その際、リプロダクティブヘルス/ライツや男女共同参画社会について取り上げ、男女がともに協力し課題解決にあたる必要性を説いています(第3号)。 世界全体で見ると十分に生産されているはずの食料が、一方では不足し、一方では過剰になっている現状について、その要因を様々な角度から考察させます。特に、食品ロスやたんばく質摂取量といった指標を示すことにより、自分たちの生活と結びつけて主体的に考えさせます(第1号・第3号)。	p.182 ～ 189
④ 居住・都市問題 1. 発達する都市 2. 都市への人口集中にともなう問題 3. 居住・都市問題と都市計画	都市圏の規模や、都市と農村の違いを捉えさせた上で、都市への人口集中により発生するさまざまな問題について、具体例とともに考察させます。移民・外国人労働者の増加や、都心回帰などの新しい動向とも関連づけながら、社会形成に参画する態度を養います(第2号・第3号)。	p.190 ～ 195
ステップアップ③ 「誰も置き去りにしない世界」を考える。	地球的課題の相互関連について、SDGsの指標をもとにより具体的に探究させます。SDGsのターゲットのなかから、衛生的なトイレの整備を事例として取り上げ、持続可能な社会に向けた課題解決方法について、主体的に考えることを促しています(第1号～第5号)。	p.196 ～ 197

第5章 生活圏の諸課題		
<p>① 日本の自然環境と防災 導入 世界地図でとらえる自然災害のリスク</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界からみた日本の地形の特色</li> <li>2. 世界からみた日本の気候の特色</li> <li>3. 風水害と防災</li> <li>4. 火山の噴火と防災</li> <li>5. 地震・津波と防災</li> <li>6. 都市型災害と防災</li> <li>7. 防災への心構え～自助・共助・公助～</li> </ol>	<p>日本の地形や気候といった自然環境の特色を、世界的視野で学習した上で、人間生活に被害をもたらす自然災害について、風水害、火山の噴火、地震・津波、都市型災害に分けて、体系的に学習します。</p> <p>自助・共助・公助の精神をもち、地図を活用して主体的に行動する力を身に付けられるよう、ハザードマップを豊富に掲載しています（第3号・第4号）。</p>	<p>p.198 ～ 219</p>
<p>ステップアップ④ 地図を防災・避難行動に役立てよう。</p>	<p>地図は、災害発生前、災害発生時、復興時のいずれの場面でも、情報を整理し、現状を包括的に把握する手段として役立ちます。荒川流域を事例に、タイムラインに沿って適切なスケール、主題の地図を活用して防災・避難行動に役立てるよう、段階を追って考えさせます（第3号）。</p>	<p>p.220 ～ 221</p>
<p>② 生活圏の諸課題と地域調査 導入 地理の力で地域の課題を解決しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主題図からみた日本の特徴と課題</li> <li>2. 地域調査① 事例地域の選定～事前調査</li> <li>3. 事前調査② 現地調査～調査地図の作成</li> <li>4. 地域調査③ 他地域との比較～まとめ</li> </ol>	<p>身近にみられるさまざまな課題について、地域調査を通して解決のための方法を考えます。ここでは、千葉県富津市を事例として、高齢化がみられる地域の現状と課題を把握し、現地調査を通して解決策を見出していく過程を、具体的に紹介しています。その際、GISを活用した階級区分図・分布図づくりの手法を取り入れ、他地域でも生徒が自主的に応用できるようにしました（第2号・第5号）。</p>	<p>p.222 ～ 231</p>
<p>ステップアップ⑤ 地域調査の結果を発信しよう。</p>	<p>地域調査の結果を、ポスター・プレゼンテーションソフト・報告書の形で発表する方法を紹介しています。その際、課題解決方法を生徒が提案する形を取り入れ、主体的な調査を促しました（第2号・第5号）。</p>	<p>p.232 ～ 233</p>

#### ④ 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 高等学校の地理歴史学習の基礎となる知識・技能を確実に身に付けられるよう、内容の充実を図りました。
- 平易な文章表現をこころがけるとともに、振り仮名を豊富につけ、太字・参照ページ等を適切に配置しました。
- 本文やそのテーマに関連する写真・主題図を豊富に掲載し、視覚的にも、その節で学習する事項が明確に理解できるようにしました。
- 生徒が自学自習しやすいよう、写真の説明文や用語解説を充実させました。
- 二次元コードを適宜配置し、動画やインターネット上の地図（地理院地図）などを活用して、デジタル環境で多角的な理解ができるよう、配慮しました。
- カラーユニバーサルデザイン (CUD) に配慮し、すべての生徒にとって学びやすい誌面となるよう心がけました。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-88	高等学校	地理歴史	地理総合	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
130二宮	地総704	地理総合 世界に学び地域へつなぐ		

## ① 編修上特に意を用いた点や特色

地理総合の目標は、学習指導要領には「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す」とあります。本教科書は、こうした目標や、学習指導要領の総則に示す教育の方針を達成するため、特に以下の点に意を用いて編修しています。

## A. 必要な知識・技能が過不足なく身につく構成

内容の取扱い(1)アには、「基本的な事柄を基に指導内容を構成すること」とあります。地理・歴史学習の基盤となる知識・技能が確実に、過不足なく身につくよう、各章のバランスの取れた目次構成をとりました。多様な学び方に対応できるよう、第3章「世界各地の生活文化」は、世界を10の事例に分け、「自然」「社会」「経済」「開発」の観点から1つずつ選択して学習する形をとりました。(⇒5ページ目参照)

誌面構成は、生徒が学ぶ内容が明解になるように、見開きで完結させました。また、自学・自習し、自ら課題を探究できるよう、問いかけや解説などを豊富に掲載しています。

### 誌面イメージ

新鮮で、好奇心をかき立てる写真！

1 アマソンの熱帯雨林(ブラジル、パルカ州、2018年10月撮影) 湿度が高いため、霧が発生している。

2 サレーラの伝統的な家屋(シリア、2019年11月撮影) 多く窓が少なくて、暑熱環境に適応する工夫がみられる。

3 キヤザバの収穫(ルワンダ、2012年6月撮影) キヤザバはタバコか原料で、熱帯地域では主食になっている。

4 マングローブの船木(ベトナム、2014年10月撮影) マングローブでは、河川や海からの有機物が豊富で、いろんな生物が生息している。

硬軟織り交ぜた、多彩なコラム！

#### 4 熱帯の自然環境と生活

**熱帯気候** 熱帯気候は、赤道を中心に南北に分布している(図4-1)。気温は1年を通して高温で、年較差が小さい。また、季節風(モンスーン)や熱帯低気圧の影響で降水量が多く、雨季の河川氾濫では浸水や洪水が起こる。高温で湿度も高いため、高床式の伝統的な家屋がみられ(写真2)、沿岸部の汽水域<sup>①</sup>ではマングローブが広がる海岸もみられる(写真3)。

**熱帯雨林気候** 熱帯雨林気候(Af)の地域は、赤道直下に分布し、1年中高温で雨が多く湿度が高い。常緑広葉樹が生育する熱帯雨林(写真4)が広がり、生物も多種多様で自然が豊かだが、熱帯特有の風土病も発生しやすい。

熱帯雨林気候の周辺には、季節風の影響で弱い乾季のある熱帯雨林気候(Am)の地域が分布する(図4)。雨季の降水量が多いため熱帯雨林が広がるが、乾季に落葉する落葉広葉樹もみられる。また、乾季には水がなくなってしまう湖もあり、雨季には船を使って移動するが、乾季は船の道も道路に変わる(写真5)。

① 日本にもある汽水域。汽水域は河川が海とつながる一部に、塩分もある熱帯雨林気候(Af)と、日本東部の気候は熱帯雨林気候(Af)に近づく。

#### 熱帯低気圧

熱帯低気圧は、海面水温27℃以上の海域で生まれ、西に向かいながら発達し、そのあと中緯度に移動する。地球の自転の影響で、赤道付近では深層から湧き上がる水を冷やして雲高水温が低いため、熱帯低気圧は赤道から少し離れた海域で発生する(図4)。フィリピンの東の海域には高水温域が広がっているため、熱帯低気圧が多く発生し、日本に台風として接近・上陸するものも多い。

① 熱帯域によって呼び方が違っている熱帯低気圧。北太平洋とアジア東部では台風、北太平洋とインド洋ではサイクロンとよばれる。

#### 熱帯気候の分布

① 熱帯気候の分布

② 熱帯気候の降水量

③ 気候と生活文化

学習の動機付けを明確にするイントロ

作業指示・設問

丁寧・充実の用語解説！

GIS時代に対応した主題図・図表

「まとめと探究」で振り返りと探究学習に対応！

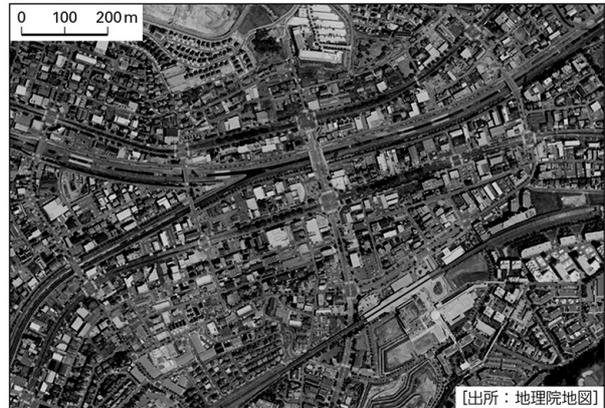
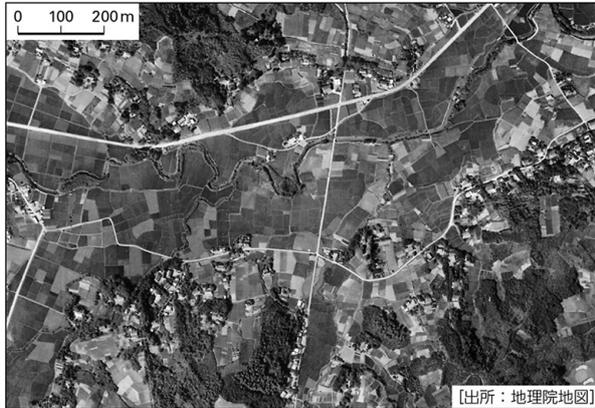
授業の余談にも使える「豆知識」！

調べ学習に役立つ情報源！

-1-

## B. 豊富な写真によるビジュアルな構成

内容の取扱い(1)イでは、「衛星画像や空中写真、景観写真の読み取り」などの地理的技能を身につけることが求められています。これに対応し、教科書には500点近くの豊富な写真を掲載しました。地域の自然環境や人々の生活文化などの要素が読み取れる「地理写真」を、世界各地から集めました。ほとんどの写真には、撮影年・撮影月を明記しました。



→ p.39 「地理院地図の表示画面」(左：1961～1969年の写真，右：現在の写真)  
都市化による土地利用の変化がわかる空中写真を、地理院地図の操作例として掲載しました。

### 5 多様な気候と生活文化～アフリカ

自然 多様な気候のもとでは、営まれる生活文化に違いはあるだろうか？

◆ 伝統家屋と家畜 (2013年2月撮影) 乾燥地域では、遊牧民が牧場を求めて移動しながら家畜を育てる暮らしをしていたが、現在は定住も進んでいる。

◆ 多層ソルガム(もちのこ)の脱穀 (2013年2月撮影) 乾燥したブルキナファソの北部ではとうもろこしが育ちにくいので、主食用にソルガムが栽培されている。

◆ 乾季ひょうたんに入れた牛乳 (2013年2月撮影) 乾燥に強い作物と家畜の複合農業が営まれ、生乳や乳製品を販売する農家もみられる。

世界を旅して **ブルキナファソ**

西アフリカ・ブルキナファソの中部にある小さな村を訪ねました。茅葺き屋根と土壁の家屋が印象的な村で、主食はソルガム(もちのこ)で、料理には牛乳が使われていました。

1 調べてみよう  
① 地図上で、ブルキナファソの位置を確認しよう。  
② 右の気候区分図で、ブルキナファソの気候を確認しよう。  
③ 宗教地図で、ブルキナファソの宗教を確認しよう。

122

→ p.122 「多様な気候と生活文化～アフリカ」導入  
第3章「世界各地の生活文化」の各事例の導入には、生活文化と相互に影響し合う「自然」「社会」「経済」の様子がみてとれる写真レポート「世界を旅して」を掲載しました。

→ p.167「相互に関連する地球的課題」(第4章導入)  
地球的課題とSDGs(持続可能な開発目標)との関連を重視し、地球的課題の導入としてSDGsの17の目標に対応した写真を掲載しました。

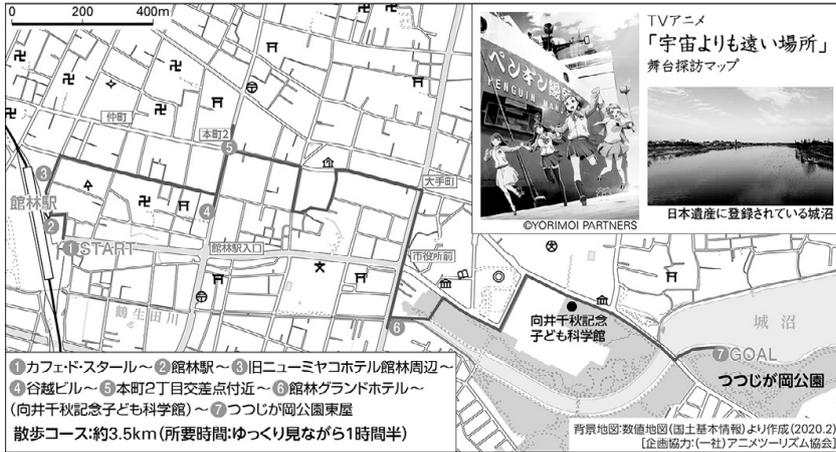
### ● 地球的課題とおもに対応するSDGsの目標

節	ページ	対応するSDGsの目標
地球環境問題	168～175	7, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
資源・エネルギー問題	176～181	6, 7, 9, 11, 12, 16, 17
人口・食料問題	182～189	1, 2, 3, 4, 5, 6, 12, 13, 16, 17
居住・都市問題	190～195	1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 16, 17



## C. 多様な地図を収録し、地図・GIS 学習を充実

内容の取扱い(1)ウでは、「地図の読図や作図などを主とした作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れる」ことを通して、地理的技能を身につけることが求められています。教科書では、第1章「地図とGISの活用」で基礎的な知識・技能を紹介するとともに、地理院地図や地理情報システム(GIS)を用いて製作した多様な地図を、各章に掲載しました。

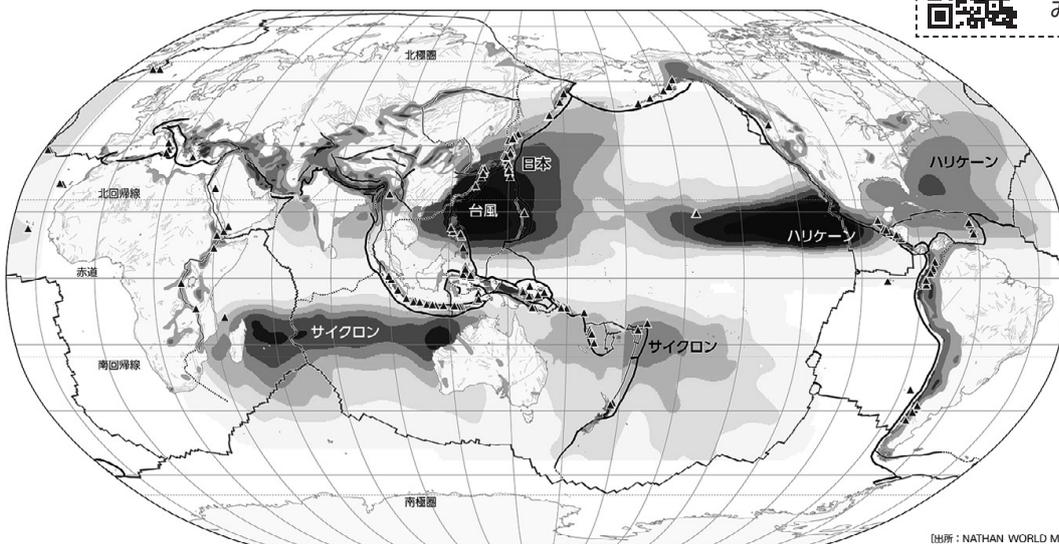


### ← p.47「TVアニメの聖地散歩地図」(第1章ステップアップ)

TVアニメの舞台となった町の聖地散歩地図を例に、情報を収集・選択・処理して散歩地図をつくる方法を紹介しています。



●各レイヤのON/OFFを切り替えて表示してみよう。



### ↑ p.59「自然堤防」(土地条件図)(第2章コラム「GISチャレンジ」)

地理院地図に土地条件図を重ね合わせた図です。二次元コードにより、地理院地図のウェブサイトと同様の地図を表示することができます。



↑ 富士市の観光資源

### ↑ p.198～199「世界の自然災害リスク地図」(第5章①導入)

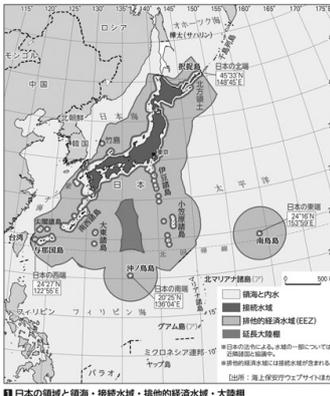
レイヤ切替ができる地図をサーバ上に用意しており、二次元コードでアクセスして、必要な情報を選択して地図を表示することができます。

### ← p.227「富士市の医療機関・福祉施設」(第5章②・地域調査)

地域調査の前段階として、インターネットから入手できるGISデータ(国土数値情報)を用いて作成することができる分布図の例を示しています。

## D. 日本に関する記述の充実

内容の取扱い(1)オには、「各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察するようにする」とあります。これに対応し、各章において日本と関連づけた記述を充実させました。



国土面積	38万km <sup>2</sup>
領海(内水を含む)	43
接続水域	52
排他的経済水域(接続水域を含む)	405
延長大陸棚	18
領海+排他的経済水域	447
領海+排他的経済水域+延長大陸棚	465

↑日本近海の海底地形「海しる」では、海底地形の名称を表示することもできる。

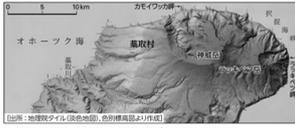
### 地理の技能

#### 写真と地図で見る日本の東西南北端

日本の東西南北の端はいずれも島嶼にあって、それぞれが特徴をもっている。地図図で四つの位置を確認して、それぞれの特徴を地図と写真から考えてみよう。



↑日本最北端の択捉島(北海道 択捉村, 1999年撮影) 択捉島の北東部にあるカモイワツカ峠が、日本の最北端である。



↑日本最北端の択捉島の地形(地理院地図(色別標高図)) 人工衛星「だいち」が撮影した画像の解析により、詳細な地形が明らかになった。択捉島や国後島には多くの火山が分布している。



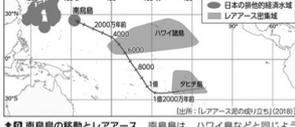
↑日本最南端の沖縄の南島(東京都小笠原村, 2013年撮影) 満潮時には、北小島と東小島の2島のみが海面上に残る。



↑日本最南端の沖縄の南島の全体図(航海用海図「J」笠原諸島誌分図第1) 干潮時には環礁の大部分が海面上に姿をみせ、船舶の係留や停泊ができるように島点の整備が進んでいる。



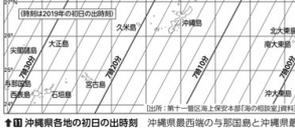
↑日本最東端の南鳥島(東京都小笠原村, 2012年撮影) 現在は海上自衛隊や気象庁・国土交通省の職員が常駐している。



↑南鳥島の移動とレアアース 南鳥島は、ハイク島などと同じように火山活動によって生まれた島で、長い時間をかけて現在の位置まで移動した。そのため、日本のほかの島々とは地質が異なる。



↑日本最西端の与那国島(沖縄県与那国町, 2019年撮影) 西崎の先には、日本の最西端である「トウシシ」という岩礁がある。



↑沖縄県各地の初日の出時刻 沖縄県最西端の与那国島と沖縄県最東端の北大東島は約800km離れている。初日の出の時刻にどのくらいの差があるか、考えてみよう。

↑ p.22～23「海に広がる日本の領域」 海洋国家・日本への理解が深まるよう、従来から掲載していた地図だけでなく、海洋状況表示システム「海しる」や、地理院地図、海図などを題材として取り上げました。

↓ p.107 コラム「ツナガリジャパン」の例  
第3章「世界各地の生活文化」で取り上げた各事例の最後にはコラム「ツナガリジャパン」を掲載し、世界各地と日本の、産業や生活文化のつながりを紹介しています。

### マレーシアで親しまれている盆踊り

↑ マレーシアでの盆踊り大会(クアラルンプール, 2019年7月20日撮影)

**台湾と日本の交流**

マレーシアで親しまれている盆踊り  
バングラデシュでの水道支援事業  
日本で暮らすムスリム  
ケニア産の切り花  
パリのリトルトーキョーとラーメン人気  
アムール川と親潮  
日本とアメリカで共同開発する航空機  
カリブ海の音楽と日本  
オーストラリアの高校生と日本語

-4-

## ② 対照表

教科書の単元構成		該当箇所	配当時数	学習指導要領の内容	
口絵 世界の友達から「こんにちは」、衣の世界・食の世界・住の世界		前1～前5	—	—	
第1章 GISの活用	<b>導入</b> 地理の扉～現在の世界地図が生まれるまで	12～13	2	15	A(1) 地図や 地理情報システム と現代世界
	1 球面上の世界	14～17			
	2 世界からみた日本の位置と領域	18～25			
	3 国内や国家間の結びつき	26～35			
	4 暮らしのなかの地図とGIS	36～45			
	<b>ステップアップ①</b> ぶらり散歩地図をつくろう。	46～47			
第2章 の地理的 環境	<b>導入</b> 写真から読み解く地理的環境の特色	48～49	4	18	
	1 地形と生活文化	50～59			
	2 気候と生活文化	60～73			
	3 産業と生活文化	74～79			
	4 宗教・言語と生活文化	80～87			
第3章 世界各地の 生活文化	<b>導入</b> 各地域の生活文化と地理的環境のかかわり	88～89	—	11	B(1) 生活文化の 多様性と 国際理解
	1 経済発展と生活文化の変化～東アジア <b>【経済】</b>	90～99	3*		
	2 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国 <b>【社会】</b>	100～107	3*		
	3 水の恵みと生活文化～南アジア <b>【自然】</b>	108～113	2*		
	4 イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏 <b>【社会】</b>	114～121	3*		
	5 多様な気候と生活文化～アフリカ <b>【自然】</b>	122～127	2*		
	6 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国 <b>【経済】</b>	128～137	3*		
	7 寒冷な気候と生活文化～ロシア <b>【自然】</b>	138～143	2*		
	8 グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ <b>【経済】</b>	144～151	3*		
	9 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ <b>【開発】</b>	152～157	2*		
	10 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア <b>【開発】</b>	158～163	2*		
<b>ステップアップ②</b> 各地域の生活文化を比較してみよう。	164～165	1			
第4章 国際協力	<b>導入</b> 相互に関連する地球的課題～SDGs	166～167	4	14	B(2) 地球的課題と 国際協力
	1 地球環境問題	168～175			
	2 資源・エネルギー問題	176～181			
	3 人口・食料問題	182～189			
	4 居住・都市問題	190～195			
	<b>ステップアップ③</b> 「誰も置き去りにしない世界」を考える。	196～197			
第5章 生活圏の 諸課題	<b>導入</b> 世界地図でとらえる自然災害のリスク	198～199	7	12	C(1) 自然環境と防災
	1 日本の自然環境と防災	200～219			
	<b>ステップアップ④</b> 地図を防災・避難行動に役立てよう。	220～221			
	<b>導入</b> 地理の力で地域の課題を解決しよう。	222～223			
	2 生活圏の諸課題と地域調査	224～231			
<b>ステップアップ⑤</b> 地域調査の結果を発信しよう。	232～233	5	C(2) 生活圏の調査 と地域の展望		
巻末資料 鉱産物・畜産物・農産物ギャラリー		240～後3	—	—	—
		配当時数	70		

\* 第3章は「自然」「社会」「経済」「開発」のそれぞれから一つの事例を選択する。